



外国文献紹介

脳動脈瘤の手術中に実施した術中 3 次元 DSA 撮影と 術中 ICG 蛍光血管撮影の比較

Marbacher S et al : Comparison of 3 D intraoperative digital subtraction angiography and intraoperative indocyanine green video angiography during intracranial aneurysm surgery. J Neurosurg 131 : 64-71, 2018

筆者らは、脳動脈瘤手術を行った患者 120 例（134 病変）について後ろ向き調査を行い、術中 ICG 蛍光血管撮影（ICGVA）や術中 3 次元 DSA 撮影（3 D-iDSA）の所見などについて検討した。その結果、動脈瘤の治療に用いられた 215 個のクリップの中で、画像所見から術中にクリップの位置を変更したものが 29 個（24%）存在し、変更により良好な手術結果が得られていた。5 例では ICGVA の所見と 3 D-iDSA の所見が一致しなかったが、これらはいずれも前交通動脈領域に動脈瘤が存在していた。そして、術中に必ず 3 D-iDSA などを実施するようにすれば、術後の DSA 撮影を省略することが可能だと述べている。

瀬戸一彦